

3月23日、総長先生による授業見学を受けて学んだこと。

社会福祉学部 学部長補佐 准教授
修士（文学） 堀 肇

今回は、総長先生はじめ他の先生方に私の授業を見学していただき、総長先生からご指導をいただいた。今回の授業見学で気づいたこと、反省すべきこと、学んだことについて述べさせていただいた。

前日の授業見学研修で総長先生が指導されていたことを踏まえて、テキストの解説をすべて読んで暗記させるのではなく、あらかじめ教員が大事なところにアンダーラインを引くなどして示して、そこだけを学生に覚えさせるという授業方法で行った。

これまでも、学生から「テキストの解説自体が難しく、しかも量がたくさんあって覚えきれない」という声を聞いていたので、自分としてはその点に注意して覚えるべきこと、覚えなくてもよいことを明確に区別して教えたつもりでいた。しかし、振り返ってみると、授業をしているうちに、これも教えておいた方が試験で役に立つかもしれないと思って、あれこれ教えすぎてしまっていた。今回の授業見学でも、幾度となく総長先生から覚えるべきことをもっと明確に伝えるようにとご指導をいただき、まだまだはっきりと示し切れていないことに気づかされた。こういったことが積み重なると学生が負担を感じ、さらには不安へとつながり、最終的にはやる気を無くしてしまうことにつながっていたのだと反省させられた。

また、選択肢を正しく直させるようにとの指導も何度か受けた。これも、学生にポイントをはっきりとさせ、後で復習をするときにどこが間違っているのが明確になるので非常に大切なことであるが、おろしかにできてしまっていた。総長先生はいつも、学生全員が本当に理解できたかどうかを確認し、取り残される学生がいないように授業を行わなければならないと何度も指導されてきた。このことを再度肝に銘じ、全員が直したかどうかを確認しながら進めるようにしていきたい。

今回の総長先生の授業見学、これまでの授業見学を通じて総長先生から学んだことは2つに絞られる。1つは、常に学生の立場に立って、学生が最後（国家試験当日）まで、やる気を維持して勉強に励ませること。2つめは暗記のさせ方を今一度見直して、漫然と暗記させるのではなく、ポイントを絞って合格に必要な知識だけを確実に覚えさせることである。この2つを実践することを通じて、来年度一人でも多くの学生が合格できるよう指導に当たっていききたいと決意を新たにしたい。